



現場から（最近のニュースから）

見ることの限界



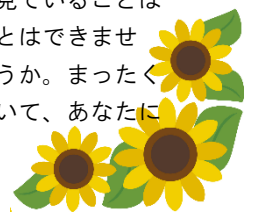
子どもたちの夏休みが始まりました。夏休みの宿題に「観察すること」があるかもしれませんが。ところで、私たちが見ていることは、ほんとうにそこに存在しているのでしょうか。それを考えた人がいると紹介している記事がありました。

人間の「見る」という行為を分析していくと、不思議なことが明らかになるということです。目の前に何かしらの物体があるとすると、ほとんどの人はその物体を自分が見ていようが見てまいがそこに存在すると考えているのですが、実は違うという理論があるそうです。哲学者インマヌエル・カントが提唱した「観念論」について、『全人類の教養大全 2』著者のチェ・ソンホ氏が説明していました。

手にりんごを持っているとき、私たちは「手の中にりんごがある」と思いますが、しかし、目で見ると細かく考えると、ちがうのではないかとということです。目で見るというのは、光源から放たれた光の粒子がリンゴの表面にぶつかったあとに、はね返って私たちの水晶体を通過して、網膜を刺激することを言うそうです。光の粒子が網膜を刺激して、それを網膜の視細胞は電気信号に変えて視神経に送り、その情報が脳に伝わるという仕組みです。つまり電気信号に変えられた情報を脳が受けているので、目の前のりんごは「脳がつくり上げた映像」だということです。ですから、「リンゴと世界は自分の頭のなかにある。私はただ自分の頭のなかのイメージを見ている」だけだということです。

カントは、このように目の前に現れている世界を「現象」と言い、それは、私たちが知ることができるけれど、その向こう側にある本当の世界（カントは「物じたい」と言ったそうです）を認識することは絶対にできないと言っています。つまり、私たちは、自分の観念の中に閉じこもっていて、それぞれがちがう世界（それぞれが見た「現象の世界」）に埋もれているだけだということです。（7月29日東洋経済 ONLINE＜目の前にあるリンゴは、脳がつくり出した映像にすぎない。この世のすべてのものは、存在しているままに見られないという認知の不条理＞より）

目で見ることだけではなく、人間はすべてを認識することは不可能です。そして、一度に認識できる範囲もとても狭いです。自分がお腹が空いていたら、レストランの看板や食べ物のディスプレイなどに目が行きますが、お腹はいっぱいで、ほかのことに興味があったり、体調がすぐれなくて休みたいときなどは、そのようなものは見ようとしません。結局、自分が主体になって見聞きしているのに過ぎないのです。そのような限界がある存在だと、まず自分で気づかないと、自分の世界を自分で作り上げて、その中で判断して生きる「井の中の蛙」にしかありません。見ていることは事実ではなく、目に見えない事実が別にある、これは、人間から研究しても知ることはできません。人間では研究しても知り得ないものを、どうやって知ることができるのでしょうか。まったく別の次元から見ることもできる道があります。その次元の違う世界を見ることについて、あなたにお知らせしたいことがあるのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」